

平成30年6月定例会 経済委員会（事前）

平成30年6月12日（火）

〔委員会の概要 農林水産部関係〕

来代委員長

休憩前に引き続き、委員会を開きます。（10時53分）

これより、農林水産部関係の調査を行います。

この際、農林水産部関係の6月定例会提出予定議案等について、理事者側から説明を願うとともに、報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【提出予定議案等】（説明資料）

- 議案第1号 平成30年度徳島県一般会計補正予算（第1号）
- 報告第1号 平成29年度徳島県繰越明許費繰越計算書について
- 報告第2号 平成29年度徳島県事故繰越し繰越計算書について

【報告事項】

- 「ターンテーブル」の運営状況について（資料1）
- 二枚貝の貝毒の発生とその後の状況について（資料2）

川合農林水産部長

それでは、お手元に配付いたしております経済委員会説明資料により、農林水産部関係の案件について、御説明申し上げます。今回、提出を予定しております案件は、大きく3点、平成30年度6月補正予算案、繰越明許費繰越計算書及び事故繰越し繰越計算書でございます。

まず、始めに今回の6月補正予算案ですが、経済・雇用対策の推進として、農林水産業の更なる飛躍を図るため、所要の予算措置を行うものでございます。

説明資料の1ページをお開きください。

歳入歳出予算の総括表でございますが、一般会計につきまして、補正額欄の最下段に記載のとおり2,500万円の増額をお願いするもので、補正後の予算総額は340億2,964万2,000円となっております。補正額の財源内訳につきましては、最下段の計の欄の括弧内に記載のとおりでございます。

次に、2ページをお開きください。

課別主要事項について、御説明いたします。

まず、もうかるブランド推進課関係でございますが、1段目の計画調査費、摘要欄①のア、「阿波ふうど」に感動・インバウンドおもてなし事業におきまして、海外からの誘客促進や、阿波ふうどの需要・輸出の拡大を図るため、国際スポーツ大会や大型クルーズ船の寄港により海外から来県される方等に対し、食のおもてなしにより、阿波ふうどの魅力を発信する経費として、1,000万円の増額をお願いしております。

次に、3ページを御覧ください。

農林水産総合技術支援センター関係でございますが、同センターにおける外部資金によ

る受託研究に要する経費として、革新的技術開発推進事業におきまして、5段目の農業研究費について510万円、9段目の畜産研究費について214万3,000円、12段目の森林林業研究費について317万9,000円、14段目の水産研究費について457万8,000円の増額を、それぞれお願いするものでございます。

農林水産総合技術支援センターの合計といたしましては1,500万円の増額をお願いしております。

次に、4ページをお願いいたします。

その他の議案等といたしまして、（1）平成29年度繰越明許費繰越計算書でございます。平成30年2月定例会におきまして、翌年度繰越予定額を御承認いただきましたが、このたび、御承認いただいた額の範囲内で繰越額が確定いたしました。4ページから8ページにかけ、各課別の繰越明許費の状況を記載いたしております。

8ページをお開きいただきますと、7課の翌年度繰越額の合計額について、最下段、翌年度繰越額欄に記載のとおり、合計で77億1,005万9,638円となりましたので、御報告させていただきます。これらの事業につきましては、早期に事業効果を発現できるよう、最善の努力を尽くしてまいりますので、御理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

次に、9ページでございます。

（2）平成29年度事故繰越し繰越計算書でございます。生産基盤課の湛水防除事業費及び地盤沈下対策事業費におきまして、翌年度繰越額欄の最下段に記載のとおり、3,308万円を繰り越すこととなったものです。これは、工事の施工中に発生した災害などに対応するため、計画の変更を余儀なくされたことなどから、やむを得ず、年度内完了が困難となったものでございます。なお、これらの事業につきましては、一層の進行管理に努め、5月末をもって完成いたしております。

提出予定案件の説明は以上でございます。

この際、2点御報告させていただきます。

資料はお手元にお配りしておりますが、まず、1点目は、「ターンテーブル」の運営状況についてでございます。

資料1を御覧ください。首都圏における情報発信拠点のターンテーブルは、今年2月4日のオープンから4か月が経過いたしました。このたび、2月期から4月期までの運営状況について運営事業者より報告がありましたので、御説明します。

まず、1の各部門の利用者数の計の欄を御覧ください。

ホテルでは、3か月で2,899人が宿泊し、稼働率では61%となりました。また、レストランでは1,522人、バル・マルシェは3,614人、合計で8,035人の利用となっております。

次に、2のイベント開催実績では、毎月、食や音楽、徳島への移住など、様々なテーマによる趣向を凝らしたイベントを開催し、多くのお客様が徳島の魅力を体感されております。

3の部門別の売上げでは、レストランが3か月で1,349万4,000円、バル・マルシェでは694万5,000円、合計で2,043万9,000円となっております。

4の県産食材等の仕入れでは、延べ321商品、782万3,000円となっております。

2 ページを御覧ください。

本施設での情報発信や交流をきっかけといたしました代表的な事例を5の波及効果としてまとめております。（1）インフルエンサーによる発信の一例では、ターンテーブルの記念音楽アルバムを制作した世界的に著名なDJによるSNS発信に反応したファンが、全国各地から施設を訪れております。（2）メディアによる取材・発信として、開業以来、ウェブマガジン、FMラジオ番組など多数のメディアに取り上げられ、「発見と驚きの連続」、「奥渋谷に出現」、「驚くべき中身」などの言葉をもって紹介されるなど、一般的なアンテナショップとは異なる特徴的なコンセプトに注目が集まっております。

（3）商談の創出の事例として、施設を訪れ、食事をした都内の飲食店の方やホテル経営者などから、県産食材を仕入れたいという相談を複数受けております。（4）施設周辺の皆様との交流では、地元町内会のサロンとして活用したいとの御要望を頂いたり、会食で利用した渋谷区役所の関係者から、好感度な大人の街を目指す渋谷の街づくりコンセプトの具現化を実感したとの評を頂いた、などの事例が報告されております。

以上を総合的に見て、おおむね順調なスタートであると捉えておりますが、引き続き、運営事業者との連携を密にし、本施設での情報発信や交流をきっかけとした波及効果をしっかりと徳島へ還元できるよう、取り組んでまいります。

次に、2点目は、二枚貝の貝毒の発生とその後の状況についてでございます。

資料2を御覧ください。

去る3月23日、徳島市の沿岸で採取したカキから、国の規制値である、1グラムあたり4マウスユニットを超える麻痺性貝毒が検出されて以降、播磨灘、紀伊水道、太平洋の県下全域及び吉野川水系の汽水域という、かつてない広範なエリアで貝毒が発生しました。2にありますように、貝毒とは、アサリやシジミなどの二枚貝が原因プランクトンを体内に餌として取り込み、毒素を蓄積することによって発生するものであります。この毒素は、加熱調理しても変化しないことから、毒化した二枚貝を食べると、体のしびれなどの中毒症状を起こし、最悪の場合では死に至ることもあり得る大変危険なものです。今回の貝毒の発生を受け、県では、直ちに漁業関係者に対する出荷自主規制の指導、事業者に対する流通・販売の自粛の指導を行ったところでございます。また、ホームページへの掲載や相談窓口の設置、地元市町の協力のもと、CATVによる広報や潮干狩り場での看板設置を実施したほか、報道機関の御協力も頂きながら、県民への注意喚起を行うなど、事故防止の徹底を図りました。その結果、本県においては、他府県で見られたような健康被害は、今回、発生しておりません。5に記載のとおり、その後の貝毒原因プランクトンの減少・消失に伴い、貝毒の毒量は低下し、検査により出荷自主規制の解除条件を満たした海域から、順次、規制を解除し、5月22日には吉野川水系の汽水域を含む県下沿岸全域の二枚貝について、出荷自主規制の指導と潮干狩りの自粛要請を解除いたしました。ただ、沖合漁場における小型底びき網漁業の漁獲対象となるアカガイ等の二枚貝につきましては、依然として毒化が続いていることから、現在も検査を継続しているところです。県では、引き続き、きめ細やかな調査や、迅速な情報発信に努めることとし、確実な貝毒の終息が確認された際には、その旨を速やかに、県民の皆様にお知らせしてまいりたいと考えております。

報告事項は、以上でございます。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

来代委員長

以上で、説明等は終わりました。  
これより質疑に入ります。  
それでは質疑をどうぞ。

井川委員

ターンテーブルの説明がございましたので、ターンテーブルの質問をさせていただきます。いろいろ説明を受けました。部門別の売上げということでレストランとバル・マルシェ、足して2月4日からでしょうけど570万円、3月が730万円、4月も730万円ということでございまして、施設の開設者である徳島県としてこの売上げの数字をどのようにとっていいものか教えていただきたいと思えます。

阿部もうかるブランド推進課長

ただいま、飲食物販部門の売上げについて、どう捉えているかというようなことで御質問を頂いております。

2月4日にターンテーブルがオープンをいたしまして、今回は3か月のデータということでございます。資料にも書かせていただいておりますが、平成32年度目標として設定をいたしました数値目標までは、まだまだこれからという状況でございます。これにつきましては、2月4日の営業開始から、しばらくの間、店舗運営をしながら、お客様の反応でありますとか、声を聞かせていただきながら、サービス内容の改善、スタッフの習熟を繰り返す、テスト的な運転という側面もございました。また、開業後の一過性のブームにならないようにスタッフも当初ということでいきますと、若干不慣れな状況もあるかもしれない、そういった点で、お客様に御不便をお掛けをしないように、あえて集客プロモーションを抑え気味にしていたというようなこともございます。

一方、4月では77%と好調なホステル宿泊、泊まれたお客様を一層今後ともレストランでありますとか、1階軽食を提供するバルなど飲食のほうにしっかり誘引していくこともこれからも特に重要であると考えております。

また、現行レストランではリピーターの方も多く、地元企業などによるパーティー利用でありますとか、イベント利用の要望も増えておるということを聞いておりました、こうした状況を着実に売上げの向上につなげていく必要があるというふうに認識をしております。

井川委員

県から施設を借り受けて運営事業者が責任をもって運営しておるということで聞いておりますので、施設の経営状態については事業効果というか、そういう観点から見たらあんまり県議会でガタガタ言うべきでないんかも分らんということでございます。私も会派等々で何度か行かせてもらいまして、いろいろレストランのほうも見せていただいたんですが、格好ええ外国人の方がおって、何かおいしそうに、やっているんですけど、ちよっ

とスタッフがたくさんいるような気がします。

私も現実、飲食店を家が経営しとるんで、あれだけうちの店でスタッフがおったら、絶対に2か月もあつたら潰れるなあというようなことを思います。やっぱり徳島発信の事業ということでございますんで、安定的に何とか続けてもらわないかんということでございますので、県としても収支面が、大事なことになると思います。開業からこれまでの収支についてどのような状況であるか、ちょっと教えていただきたいと思います。

阿部もうかるブランド推進課長

ただいま、収支についての御質問を頂いております。

この2月4日からオープンということでございまして、ただいま平成29年度の収支につきましては、収支報告書の内容を運営事業者から聞き取りを行うなど確認中でございます。今後、4月以降につきましては、1年間やってみないと正確なことは申し上げられないんですけども、好調な宿泊部門の売上げが収益性を高めていくという見通しでございます。今後、県による現地確認なども行いまして、収支の数字が固まり次第、改めて報告をさせていただきますと考えております。

井川委員

まだ、できて4か月、5か月、そんなもんですからあんまりできたすぐから収支がどうのこうのとか、県のほうがガタガタ言うと、借りている業者もやる気が起こらないかも分からないから、やむを得ずというところもありますが、徳島発信ということで県が掲げております設置目的でありますんで、しっかりとその目的を発揮させていくために今後、収支安定に向けて県としてはどのように取り組んでいくのか、お聞かせいただきたいと思えます。

阿部もうかるブランド推進課長

ただいま、今後の収支の安定に向けてということで御質問いただいております。

先ほど井川委員から、ちょっとスタッフの数が多いんではないかというようなお話を頂きました。どうしても立ち上げ早々ということでございましてサービスを十分にとということで不慣れな状況の中で、しっかりサービスしていただくということ、若干アルバイト的なところを増やしていたのもあったというふうに聞いております。

今後、スタッフのスキルアップによるサービスの向上やスタッフ体制の更なる効率化を図るとか、飲食部門のメニューやサービスの更なる改善による売上げの増加、それから、食をテーマとした有料のイベント、これによりまして売上げを増加していこうと、それから、堅調なホテル利用客、宿泊利用客を飲食にしっかりと誘導していく、強化していくということなどによりまして、収支安定に向けた改善をこれからも一層繰り返していくと運営事業者から聞いているところでございます。

井川委員

分かりました。県が借りて、借り賃を取っていくということでございまして、とりあえず民間の一企業が渋谷に出ていって店をやるよりは、環境としては良い環境かも分かりま

せんし、ただ徳島県産をいかに生かしていくか、どうPRしていくかという課題も掛かってくるので、大変難しいと思います。

本当に4か月、5か月でどうこう言ったら確かにいかなのですが、頑張ってくださいように県も目を光らせていただきたいと思います。

とにかく、私も何人かからターンテーブルの話のことを聞きます。徳島から出ていった人には、徳島県が作った施設でありますから、何かものすごい期待を持ってターンテーブルに行く人もおるみたいなんですけど、今までの切り口と違うからちょっとがっかりしたという方もいらっしゃるということも聞いております。やっぱり長いことやってもらって東京で根強く頑張って徳島の産品をPRしていくと、大変大事なことだと思いますんで、県も収支の方もしっかりと見ながら長く運営を続けていただけるよう頑張ってくださいと思います。

#### 岡本委員

井川委員の言ったとおりやな。ターンテーブルについて、本会議でいろいろ聞いてますので、立場上少しだけ聞きます。さきの部長の発言の中でおおむね順調なスタートっていう発言がありました。それはそれでいいんですが、何でおおむね順調なスタートなのかということで、施設の運営状況をどんなふうに捉えているかという問題と、もう一つは県の狙いがあったよね、県の狙いどおりに運営がある程度いつているからおおむね順調なスタートっていうことになったんだと思うんですが、その辺をもっと詳しく。

#### 阿部もうかるブランド推進課長

ただいま、おおむね順調、好調といったことについての根拠的な御質問を頂いております。

ターンテーブルは2月4日のオープン以降、資料にも書かせていただいておりますが、これまで1万人近く、国内外から多くのお客様に施設を訪れていただいております。

数値目標でも平成32年度で3万人ということで、これを月で割りますと2,500人程度ということでございまして、ちょっと今後のことはまた、これからどうなるっていうことはあるんですけども、3月、4月だけ見ますとクリアしているというようなことが一つあるのかなということでございます。

また、特に県内からも自治体関係者でありますとか、生産者、一般の方々など、多くの皆様に施設を御利用いただきまして、県民の皆様からの応援っていうのも頂いているのかなということを考えておりまして、大変心強く感じているところでございます。

我々も定期的に現地を訪れて、いろんな状況確認をしておるところでございまして、一定の利用者で常ににぎわっているというふうに感じております。また、先ほどお話がございましたが、従来のアンテナショップとは全く違うようなコンセプトということにつきまして、いろんなメディアの反響でありますとか、ネット、それからSNS上の利用していただいたお客様の皆様から、いろいろ好印象を持って評価をしていただいているのかなということで、ターンテーブルに注目が高まってきているというふうにも捉えております。こうした点からおおむね順調かなというふうにも考えているところでございます。

## 岡本委員

県が狙ったとおりの機能がおおむね発揮できるっていう理解でいいのですね。

もう一つ、県内の生産者とか、これはずっと本会議で言っていますが、県民の皆さんの利益といったようなものは、何か形として見えてきていると思いますか。

## 阿部もうかるブランド推進課長

県内からも、いろいろな生産者の方でありますとか、市町村、行政連携団体の関係者の皆様が、既に施設を活用をしていただいております、農産品のPRと申しますか、商談でありますとか、更には移住交流をはじめ、いろいろな県のPRイベントを開催をしていただいております、これからも開催をしていただけるという計画も立ってきているところがございます。そうした面でも県民の皆様にも施設を活用していただくというようなこともこれまで一定はできてきているのかなと。今後としてももちろんその部分についても計画的に活用していただけるように、いろんな周知を県内に向けても発信していきたいというふうに考えております。

## 岡本委員

さっきの報告で、答弁は分かります。数的に言うと、レストランとバル・マルシェの売上は2月、3月、4月と毎月ちょっとずつ増えています。それは良いのですが、でもその下を見ると、県産食材等の仕入額っていうのは、毎月確実に少なくなっています。売上は増えているけど県産の仕入額は、段々、確実に減っています。これってどう説明するのですか。

## 阿部もうかるブランド推進課長

ただいま、仕入れの額が減っているということで、御質問いただきました。

これは2月、一番最初のスタートに、特に加工品でありますとか調味料でありますとか、県内からのいろんなおみそでありますとか、ドレッシング、いろんな物を初期的にストックさせるために仕入れの額が増えたというふうに聞いてございます。

段々とそのストックされる分が少なくなってきた、レストランの売上に対応するというので、4月でいきますとレストラン、バル・マルシェで734万9,000円ということに対して仕入額は192万4,000円で、その売上に対しての実際の仕入額というのが、通常でいう飲食店でいきます30%を超えると非常に高いということなんですけども、ターンテーブルの場合は大体40%ぐらいの見込みと聞いております。

これから時間の経過に従いまして、その実際の売上に対しての40%の仕入れの額は、ストック分がどんどん少なくなっていて、レストラン、バル・マルシェの売上と一定バランスがとれて収束していくのかなというふうにお伺いしているところでございます。

## 岡本委員

いいんですよ。今のでいいんやけど、数字だけ見ると、要するに今の答弁だけ普通に聞いたら、県産の食材の仕入れが減って、違うところが増えとるのかという気がするじゃない。等って書いてあるが、全部ということでもいいんかな。県産食材等の仕入れになってい

るんよ。減ることはもちろん、いいんですよ。もう一回聞くけど、県産食材等の仕入れになっとんよ。今の答弁だけでいくと、県産食材以外は、みんな入れてこれが全部ということ。

阿部もうかるブランド推進課長

基本的にはこの仕入額というのは県産食材を足したもので、それ以外で、例えばアルコールで言いますとワインでありますとか、それから乳製品でありますとか、県産品で調達できない物については、基本的には加工品、調味料は、ほぼ100%徳島産ということではあるんですが、それ以外で調達できないものにつきましては、別途調達をするということになってございます。今のこの額の中にはその県産品以外の調達された分は入っておりませんし、原則としてほぼ100%県産品ということですので、その仕入額のここで減っている額が、県外と言いますか、その県産品以外のその仕入れに振り替わっているということではないということで、御理解いただければと思います。

岡本委員

はい、分かりました。最初から言っているけど、要するに県産食材をしっかりと使っていたかかないかんよね。読んでいると佐那河内の村から来たんよね。地元の高齢者が孫に食べさせる野菜って、これ非常に良いんやけど、これっていつ来たの。この数字には入っていないの。多分入っていないな。

阿部もうかるブランド推進課長

実際に佐那河内村の方は、オープン当初に来られておりました、実際に商談にまでつながったということでございます。それ以降も、県内からお見えになり、こういう物を入れられないかということには、全て御希望に応じて、必ずしもいつのタイミングで仕入れできるのかとか、場合によってはイベントと単発的なところでPRさせていただくのかというのはあるんですけども、基本的にはそういう生産者の皆さんからターンテーブルで置いてほしい、食材として使ってほしいという話がありましたら、必ずターンテーブルのほうにつながります。そこで実際にこの佐那河内村以外にも新たに加わったものもあります。今後そうしたタイミングを見計らいながら、ターンテーブルで利用していくというようなことにつきましても、これからもいろいろ県内から売り込んでいただくイベントみたいなことも計画的にやっていくということにしております。これからも県内からの仕入れにつきまして、どんどん拡大できるように事業者と調整してまいりたいというふうに考えております。

岡本委員

はい、もう終わります。それでいいんですけどね。なぜかターンテーブルにいるんだけどって電話が来ます。なぜ僕に電話が来るのかよく分からないけど。ほんとによく電話が来ます。それで、いろんなこと言ってくれるんですね。時間ないので分かりやすく言うと、行った地域の人みんなが、うちのあれがないとか、切りがないんです。そういうことになっています。要するにターンテーブルへの期待が大きすぎるんやけどね。あそこへ

行ったら全てがいけるってみんな思っているからその辺は上手にね。答弁によるといけるっていうことになっているけどね。やっぱり、佐那河内の人が言っているように、正に高齢者が作った物を東京に住んでる孫が食べるっていうのは、すごく大事なことからね。そんなのをこれからも大事にさせていただいてしっかり頑張ってください。

来代委員長

ターンテーブルについて、ございますか。

達田委員

今、数字を見せていただいたんですけども、この平成32年度の目標、施設の利用者数ですと年3万人とか、あるいは、部門別の売上げでは年2.3億円というふうに書かれているんですけども、この目標数字っていうのは、どういう根拠なんでしょうか。

阿部もうかるブランド推進課長

目標数値につきましては、事業者からそのベースとなります見通しと言いますか、客の単価でありますとか、回転率をベースにしまして試算的に立てたものにつきまして、それぞれレストランの売上げ、バルの売上げ、それから、先ほどもお話しさせていただきました県産食材等の仕入れ、それから利用者数、イベントの開催実績というようなことで、事業者から出てきた数字をベースに目標数値を立てているというところでございます。

達田委員

つまり、これぐらい入っていただいたら採算が取れるという数字になっているのですか。それとも、もうけるわという数字になっているのでしょうか。

阿部もうかるブランド推進課長

基本的には県が施設を借りて、それをターンテーブルの運営事業者に転貸するというようなことで、5,000万円で借りて2,000万円で貸すという仕組みになってございます。そういう差額がある中で、基本的にはその収支を安定させて、運営事業を安定させていくというところもございます。今、現状立てている目標につきましては、これを達成できたということで、今のところ初年度の飲食物販部の売上げというのは、資料には平成32年度に2.3億円と書かせていただいておりますが、段階的にその売上目標というのを上げるような形にしておりまして、平成30年度については1.9億円ということでございます。これが達成できたとしてもやはり、いろいろ赤字的なことも若干、平成30年度については出ることかなというのを当初は見通しております。平成31年度から黒字に、あくまで見込みでなのですけども、できるのかなという数値目標と実際のその収支の見通しという関係になってございます。

達田委員

平成31年度に何とか黒字にしたいと。そして、平成32年度は更にということで目標を立てられていると思うんですけども、例えば黒字になったとしても県が負担する3,000万円

がなくなるわけではないんですね。ずっと払わないかんということでしょう。

阿部もうかるブランド推進課長

今、現行の管理運営の期間というのが、平成33年度までの契約ということになってございます。それまでの間につきましては、今の2,000万円の負担ということについては2,000万円のその転貸借の歳入を県が受けるというやり方を変えることにはしておりませんが、黒字、利益が出た場合は、その10%分っていうのをそのターンテーブルで行う県のイベント等に充てたりという形で黒字の10%については県に還元をしていただくというスキームにしてございます。

達田委員

是非、その10%が3,000万円を超えるように頑張っていたらいいなと思います。

このホステルの稼働率が徐々に上がってきましたよということなんですが、1部屋10万円でしたか、7万円でしたか、VIP用の非常に高いお部屋ありますよね。このお部屋の稼働率ってというのは、どうなってるんでしょうか。

阿部もうかるブランド推進課長

スペシャルルームの稼働率につきましては2月が20%、3月が22.6%、4月が26.7%ということで利用が進んできているというようなことでございます。

達田委員

そうしますと、稼働率が上がってきているのは、例えば、二段ベッドのお部屋であるとかシングルとか、そういう一般向けのお部屋が稼働率が上がっているということなんです。ということは、VIP用お部屋をせっかく取ってますけれども、あまりにも利用が低いようであれば、何か見直しをしていくべきではないかなと思うんですけども、どうですか。

阿部もうかるブランド推進課長

先ほど委員から10万円というお話を頂いたんですけども、現在この額を都内のいろんなホテルの需要だとかの状況に合わせて、今、額を下げているところでございます。そうしたことで少しでも利用しやすいような料金設定にするというようなことと、宿泊以外にもいろいろとパーティー的なことで利用したりとか、そういう利便性も高めるような活用の仕方についてもいろいろ事業者のほうで検討を進めているところでございます。

達田委員

ターンテーブルにつきましては、ずっといろいろな議論がされてきましたが、その中心となっているのは徳島のブランディングをしていただくんだ、食材を知ってもらい、徳島へも来ていただくような、そういうきっかけにしたいんだというようなことが、当初から言われておりましたけれども、私も2回ほど行かせていただいたんですが、私の年代の人

間ですと、徳島らしさっていうのが、どこにあるのかなという感じです。非常に洗練はされているんだけど、徳島らしさと言うか、私が今住んでいるような田舎臭さと言いますか、素朴さと言いますか、そういうものが感じられないんですね。ですから若い方には受けるかもしれませんが、もしかして徳島の懐かしい雰囲気求めて行くというような方も、都内にはいらっしゃるかと思うんですけども、そういう方が行ったときに徳島らしさがあんまり感じられないというようになると、何か拍子抜けをしてしまうんじゃないかと思うんですけどね。

何で感じられないのかなと思うんですけども、インテリアとか、それから実は従業員さんも大変良い方がそろっておられると思うんですけども、佐那河内の野菜が並んでいるわと私が言いますと、これってさなごうちって読むんですかと、そういうことをおっしゃる方がいらっしゃいました。徳島のことをあんまり知ってくれてないんだなとちょっとがっかりしました。やっぱり働く方に徳島のことを知ってもらいたいです。ですから働く方が徳島にはこういう町があって、こういう野菜があって、こういう物が採れるのですよということを口コミで宣伝をしていただけるような、そういう体制を作っていたきたいなと。せっかいいい食材を送って、食べていただくようにしておりますので、それを自慢していただきたいなと。そして徳島へ一人でも来ていただけるような、そういう状況になっていただきたいなと思うんですけども、従業員さんに対する徳島の知識っていうのは、どうなっているのでしょうか。

#### 阿部もうかるブランド推進課長

従業員に対して、徳島についての知見を深めるというようなことについてお話を頂きました。まずターンテーブルの運営事業者との転貸借契約におきまして、その運用条件の一つの中にスタッフ全員が常に徳島県について知見を深めるよう配慮すること、というふうに記載をしております。昨年の11月にはターンテーブルのシェフでありますとか、スタッフが県内各地の農林水産物の生産者の所を訪れまして、生産者の思いでありますとか、こだわり、ストーリーなどもお伺いをして、県産品に対する知見を深めたというようなこともございます。

今後とも、そのターンテーブルのスタッフがこれからも県を訪れて、いろんな所を見て回ったりしながら県産品の掘り起こしなどに取り組むとともに、ターンテーブルのスタッフ全員がターンテーブルを訪れるお客様に対して、常に丁寧に徳島について語れるように、職員研修でありますとか、情報共有についても、今後、改めて徹底をしていきたいというふうなことについては、確認しているところでございます。

#### 達田委員

こればかりちょっと時間を取るようになりますが、すみません。県産食材の仕入れについて御意見もありましたけれども、私もやっぱり食材として使っていただく分、それからマルシェって言うんですから、少なくとも、土曜日や日曜日には近所の方が県産の野菜や果物を買いに来てくれるような、そういう状態があってもいいんじゃないかと思うんですね。近所の方が中へ入りにくいですよ。ですから本当に徳島の物を安く新鮮な物を売ってるよという状況を作っていただいて、もっと徳島を力強くPRしていただけるような、

そういうマルシェにさせていただきたいなと思いますので、これは要望しておきます。よろしく願いいたします。

ちょっとほかのことを言ってもいいですか。一般会計のほうなんですけども、「阿波ふうど」に感動・インバウンドおもてなし事業ということで予算が付けられております。これ地方創生の深化のための支援費ということなんですけれども、具体的にどういうふうなことをされるのか。御説明いただけたらと思います。

#### 阿部もうかるブランド推進課長

ただいま、6月補正予算で御提案をさせていただいております。「阿波ふうど」に感動・インバウンドおもてなし事業に関しまして、御質問を頂きました。本事業につきましては、県内で開催される国際スポーツ大会等の日程が具体化をしてくる中、これらインバウンド、海外からも大勢のお客さんが来られるだろうということで、インバウンドの増大を絶好の機会と捉えまして、世界各国から来県される皆様に徳島県の豊かな食である阿波ふうどの魅力を体感いただく機会を、更に多く設けるというようなことで、徳島への誘客、それから、安全安心な県産農畜水産物の需要・輸出拡大へと機運を高めるということでございます。

事業内容といたしましては、国際スポーツ大会等で来県される外国からの競技団体でありますとか、それからスタッフ、御家族等の皆さん、それからその他外国人観光客に向けまして、歓迎レセプションなどで本県産品を取り入れた、郷土色を取り入れたメニュー等を開発して提供するとともに、競技会場につきましては、今年1月にデビューをしました、でり・ばりキッチン阿波ふうど号を活用した試食の提供でありますとか、訪れた外国人の方に県内農山漁村の魅力体感ツアーを実施するなどによりまして、本県の観光資源や食につきまして、しっかり体感していただきまして、若い外国人選手などにつきましては情報発信力もあるだろうということで、世界に向けて、広く発信をしていただきたいなというふうに考えております。

また、本県に寄港する大型客船に対しましても、これまで船外、船を降りられたときに、いろいろ県産品や観光をアピールする機会があったのですが、今後、船内におきましても阿波ふうどで乗船客の皆様をおもてなしをしようということで、県産食材をふんだんに使用しましたメニューの提案でありますとか、食材をお客さんに応じまして、多言語で対応するコンシェルジュの方を配置いたしまして、丁寧に説明するなど取り組んでいきたいなというふうに考えているところでございます。

#### 達田委員

徳島の食品、農産物とか水産物、畜産物ね、そういうような物がどんどん世界に広まっていたきたいというこれは、もう本当に強く思います。このおもてなし事業で、どれぐらいの人数を想定して、いろんな東京オリンピック・パラリンピックの準備でありますとか、いろんなスポーツ大会を計画していると思うんですけれども、それらの事業で、どれぐらいの人数がおいでで、食材がどれぐらい消費されるであろうというふうな見積りをされているのでしょうか。

阿部もうかるブランド推進課長

ただいま、参加者等の見込みについて御質問を頂きました。

今年度開催されます国際スポーツ大会、本県関係ということでございますと、ウェイクボードの世界選手権では、30か国200人の選手の参加が見込まれております。スタッフ等関係者の方も含めますともう少し大きな数になろうかと思えます。

さらに、ドイツの競技大会、東京オリンピック・パラリンピックに向けました事前キャンプ地の関係の交流ということでの柔道と卓球、カヌーの合宿等が見込まれていますが、選手、関係者100人程度の来県が見込まれております。

また、阿波おどり期間中に寄港していただく大型クルーズ客船では、ダイヤモンドプリンセス号では2,700人程度、お客さんがおいでるだろうということでございます。

今お話しさせていただきただけで3,000人か、それ以上ということになります。ちょっと数字が現時点では確定できておりませんので、実際にどんな食材を提供するのか、どんなメニューをするのかは、これからということでございますので、人数としては最低見積もっても3,000人分ぐらい要るだろうと見込んでいるところでございます。

達田委員

こういうスポーツ大会とか、大型客船が来てくれますよということとされているわけですが、東京オリンピック・パラリンピックとか、そういう大きなスポーツ大会、これが終わった後の経済の冷え込みということも今心配されていますけれども、その後もずっと、引き続き徳島の阿波ふうどをどんどん広げていく引き継いでいくと、そういうふうな取組をしていく必要があると思うんですけれども、その先のことってというのは、どういうふうに計画をされているんでしょうか。

阿部もうかるブランド推進課長

一過性でない対応というようなことで御質問いただいております。

今回の補正予算の事業等を実施いたしまして、県産食材のすばらしさでありますとか、県内観光資源の魅力を体感、体験をしていただくことで、徳島への訪問につきましては、リピーターをどんどん増加をさせていきたいということを考えております。

また、東京オリンピック・パラリンピック対応食材の条件でありますGAPの認証、安全安心を保障・担保するGAP制度というのがございますが、そのGAPの認証につきましては、ヨーロッパへの輸出では、必須となっているだけではなくて、国内におきましても大手小売業者がGAP認証を求めるなど、年々必要性が高まっておりまして、東京オリンピック・パラリンピック以降こういった国際大会が一段落した以降も、この傾向は強まるというふうに考えております。

そうしたスポーツ大会で県産品、安全安心な、場合によってはGAPの取得した農産品等をPRすることによりまして、一般消費者の皆さんにもGAPを理解していただきまして、安全安心なGAP認証農産物の消費拡大・生産拡大というようなことに東京オリンピック・パラリンピック以降もつなげてまいりたいというふうに考えております。

また、徳島県では、東京オリンピック・パラリンピックに向けまして、ドイツ、カンボジアのホストタウン国ということで食をテーマとした交流も行っているところでござい

す。東京オリンピック・パラリンピック終了後もこうした交流をベースにいたしまして、食を通じたいろんな交流というのが引き続き続けていけるように、この5月の政策提言につきましても、国に対してそうした交流に係る事業経費を支援していただけるよう政策提言も行ったところでございます。

達田委員

一過性でないやっぱり継続的な取組を是非お願いしておきたいと思います。

阿波ふうどが広がるってことは生産者も元気が出ます。元気に生産できるという体制を作っていく上でも、とても大事な取組だと思いますので、よろしく願いをして終わります。

来代委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、農林水産部関係の調査を終わります。

議事の都合により休憩します。（11時42分）